

令和5年度 石塚保育園自己評価

- 評価日 令和6年3月25日
- 評価者 園長 石塚 達義
主任保育士 石塚 潤子

令和5年度 石塚保育園 自己評価

〈評価について〉

評価をするにあたっては、以下のような基準で評価を行っています。

A：大変良い

B：良い

C：一部検討を要する

D：改善を要する

① 保育所保育に関する基本原則

	評 価 項 目	評価
保育所の役割	・子どもの最善の利益を考慮して、最もふさわしい生活の場になる事を理解する。	B
	・子どもの人格尊重を意識して保育を行っている。	B
目 標	・石塚保育園の理念・方針・目標を年度初めに職員で確認している。	B
	・石塚保育園の保育目標を保護者に園だよりや配布物を通して周知している。	A
保育の方法	・子ども一人ひとりの特性や発達のプロセスに寄り添い、発達の課題に即した援助を行うよう心掛けている。	A
	・子どもの主体的な活動を促し、意欲を持って遊べるような援助を心掛けている。	A
環 境	・健康的に過ごせるよう、保育活動の配分に気を付けている。	B
社会的責任	・個人情報適切に扱い、保護者の苦情に対し解決を図るように努めている。	B

② 養護に関する基本的事項

養護の理念	・養護と教育を一体的に行うことを意識して保育にあたっている。	A
	・養護は「健康・安全で情緒の安定を図る」営みであり、教育は「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5領域で構成されている事を理解している。	B
生命の保持	・一人ひとりの健康状態や発達について把握し、異常に気付くことができる。	B
	・生理的欲求が十分に満たされるようにしている。	B
情緒の安定	・子どもの気持ちを理解し、信頼関係を築くよう心掛けている。	A
	・自分の思いや意見をはっきり伝えることができるように配慮し、尊重している。	B

③ 保育の計画及び評価

全体的な 保育計画の作成	・全体的な計画の作成には、職員が参加している。	A
	・長期的な見通しをもった計画を立て、職員で共有している。	A
	・日常の保育を通して、子どもの思いや気持ちを汲み取りながら指導計画に反映させている。	B
	・各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	B
	・日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、指導計画を作成している。	B
	・3歳児未満児は一人ひとりの子どもの発達状況、保育計画、生活状況について作成している。	B
	・子どもが主体的に活動できるよう環境設定をしている。	B
	・長時間にわたる保育の為に環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。	B
指導計画の展開	・子どもの実態や状況の変化に応じて見直しや改善を行っている。	A
評価改善	・園全体としての評価を行い、全職員共通理解のもと改善に努めている。	B

④ 幼児教育を行う施設として共有すべき事項

	評価項目	評価
資質能力	・育みたい資質、能力を理解している。	B
	・長期的な見通しをもった計画を立て、年齢ごとに必要な経験の機会を与えている。	B
姿	・『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を理解し計画を立て、保育にあたっている。	B

⑤ 乳児保育に関わるねらい及び内容

保育の実践に関わる配慮事項	・離乳食については、家庭や調理員、保育士が連携を取りながら、一人ひとりの子どもの状況に配慮して行っている。	A
	・一人ひとりの生活リズムに合わせて、睡眠をとることが出来るように、静かな空間が確保されている。	B
	・特定の保育士との継続的な関わりが保てるよう配慮している。	B
	・睡眠中は体を仰向けにすることを認識して、体温・顔色・呼吸の安全確認をしている。	A
	・生活や遊びの中で、音・形・色・手触りなどに気づかせて様々なものに触れさせている。	B
	・上体を支え足の動きを促すなど、遊びを通して身体発達の援助を行っている。	B
	・オムツの交換、授乳などのサインを見逃さず受け止め、対応している。	A
	・発声や喃語などを優しく受け止め応える事で、言葉の理解や発語の意欲を育てる。	B
	・誤飲、転倒など大事故に繋がらないように安全環境に配慮している。	A

⑥ 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容

健康	・生活リズムについては一人ひとりの子どもの状態に合わせて、対応している。	B
	・歩く・走る・跳ぶ・登る・押す・引っ張るなど、全身を使う遊びを取り入れている。	B
	・楽しい雰囲気の中で自分で食べようとする気持ちを大切にしている。	B
	・身の回りを清潔に保つ心地良さを感じ、その習慣が少しずつ身につくように援助している。	A
	・子どもが自分で衣服を着脱しようとする気持ちを尊重している。	B
	・一人ひとりの排泄状況に応じた配慮をしている。	A
人間関係	・保育士等との安心した関わりの中で園生活を送れるようにしている。	B
	・他の子どもとの関り方を少しずつ身に付けられるよう仲立ちをしている。	A
	・自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づいたりする経験を重ねていけるよう援助している。	A
環境	・玩具や遊具は安全で、子どもの興味や発達に合った物を選び使用させている。	B
	・積極的に戸外遊びを取り入れて身体の発達を促している。	B
	・見る、聞く、触れるなど感覚の働きを豊かにしている。	B
言葉	・楽しい雰囲気の中で保育士等との楽しい言葉のやり取りが出来るようにしている。	B
	・絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	A

表 現	・水・砂・土・紙・粘土など様々な素材に触れて楽しませている。	A
	・音楽・リズムなどに親しみ、歌や手遊び、全身を使う遊びを取り入れている。	A
	・子どもの表現をしっかり受け止め、共感している。	A

⑦ 3歳以上児の保育に関するねらい及び内容

	評 価 項 目	評価
保育の実態に 関わる配慮事項	・体の状態、機嫌、食欲など、日常の状態の観察を十分に行う事で感染症を予防している	A
	・事故防止に努めながら様々な遊びを取り入れている。	B
	・進級などで保育士が変わる時は、子どもの発達に留意し職員間で協力して 対応している。	A
健 康	・生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくよう保育している。	A
	・食べる喜びや楽しさを味わいながら、食べ物への興味や関心を持てるようにしている。	B
	・十分に体を動かす気持ち良さを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つよう援助している。	A
	・園内外の危険な場所を知り、安全に気を付けて遊ぶように働きかけている。	B
人間関係	・友だちと共通の目的を見つけたり、遊びを一緒に工夫、協力して共に達成感が味わえるように働きかけている。	B
	・良い事や悪い事があることに気づき、考えながら行動できるように援助している。	B
	・友だちと生活する中で決まりの大切さに気づき守れるように配慮している。	A
	・生活や遊びの中で意欲を大事にして頑張ろうとする力、自信、自己肯定感を持つような言葉掛けや援助をしている。	B
	・身近な友だちとの関わりを通して、相手を思いやり譲り合う気持ちを持てるように援助している。	B
環 境	・園生活の中で、数量や図形、文字に触れる機会を取り入れている。	B
	・伝統行事や異なる文化に触れる機会を作っている。	B
	・自然と直接触れ合う遊びを季節に合わせて取り入れている。	A
言 葉	・人の話を聞くことが出来、日常生活に必要な挨拶や会話を身に付けさせている。	B
	・絵本や紙芝居などを通して、物語の美しさや言葉の面白さに気づくよう心がけている。	B
	・子どもが自分の経験や要求を自分なりに表現できるように配慮している。	B
表 現	・音楽に親しみ、歌を歌ったり、踊ったり、リズム楽器を作ったりする楽しさを味わう機会を作っている。	B
	・一人ひとりの子どもの表現の過程を大切に、自己表現を楽しめるよう心がけている。	B
配慮事項	・『幼児期の終わりまでに育って欲しい姿』を理解し保育にあたっている。	B

⑧ 保育の実施に関して留意すべき事項

保育全般に関わる 配慮事項	・一人ひとりの子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえ、気持ちを受け止め援助している。	B
------------------	---	---

保育全般に関わる 配慮事項	・子どもが安心感を持ち、生活できるように配慮している。	B
	・子どもを尊重する保育を実践するよう努めている。	B
小学校との連携	・小学校との意見交換や合同の研修会の機会などを設けて情報共有や連携を図っている。	B
	・子どもにおける情報共有に関して保育所児童保育要録を作成している。	A
地域社会との連携	・体験保育の中・高生の受け入れや、「さろんこうづ」への参加を通し世代間の交流ができる	A

⑨ 子どもの健康支援

	評価項目	評価
健康発達	・感染症発生時に、発生状況や感染予防について保護者に通知している。	A
	・不適切な養育の兆候や虐待が疑われる場合には、関係機関と連携対応している。	A
健康増進	・健康診断と歯科検診の結果について、保護者や職員に伝達している。	A
	・子どもの健康情報を共有し、子どもの既往症（アレルギー・熱性けいれん・脱臼癖・喘息など）について、すべての職員に周知するとともに、その発生時の対応を行っている。	B
疾病等への対応	・アレルギー疾患、慢性疾患等を持つ子どもに対し、主治医からの支持を得て、適切な対応を行っている。	A
	・アレルギー疾患を持つ子どもに対し、栄養士、調理員、養護教諭と連携を持ち、個々に合わせた対応を行っている。	A
	・食物アレルギーを持つ子どもに対しては、「保育生活におけるアレルギー疾患生活管理指導表（食物アレルギー・アナフィラキシー）」の提出により食材を変更して提供。提供時には誤食に注意を徹底している。	B

⑩ 食育の推進

保育園の特性を生かした食育	・乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、給食について見直しや改善をしている。	B
	・乳幼児に身につけておきたい挨拶や、姿勢、食具の持ち方など食事のマナーを伝えている。	B
	・トマトやきゅうりなどの栽培を通し、植物と触れ合い豊かな心の育みを目指している。	B
環境整備	・調理員、養護教諭、保育士、保護者と連携を持ち、個々に合わせた対応を行っている。	B
	・子どもが栽培、収穫したものや調理したものを食べる機会をつくるように心がけている。	A

⑪ 環境及び衛生管理並びに安全管理

環境及び衛生管理	・園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるように配慮している。	B
	・生活の場面にあった保育士の声、音楽など音に配慮している。	B
	・園内に子どもたちが季節感を味わえるような工夫をしている。	B
	・子供が活動しやすい様に保育室の温度、湿度、換気、採光などに配慮している。	B
事故防止及び安全対策	・ヒヤリハットを共有し事故防止に努めている。	A
	・睡眠中、水遊び中、食事中などの場面で重大事故が発生しやすいことを認識し、事故防止に努めている。	A

事故防止及び安全対策	・外部からの侵入に対し、マニュアルに沿った動きがとれる。	B
------------	------------------------------	---

⑫ 災害への備え

安全確認	・消火器、火災受信機、配電盤の設置場所が分かり、操作方法を知っている。	A
	・施設の安全点検を行い、改善している。	B
避難への備え	・さまざまな災害を想定した避難訓練を行っている。	B
	・保護者との連携体制や引き渡し方法が確認されている。	B
連 携	・地域や地域の関係機関と連携を図り、協力が得られるように努めている。	B

⑬ 保育所における子育て支援に関する基本的事項

支援と留意事項	・保育士は日常、子どもや保護者の様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている。	B
	・保護者が子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心掛けている。	B

⑭ 保育所を利用している保護者に対する子育て支援

保護者との相互理解	・送迎の際の対話や連絡帳への記載などの日常的な情報交換に加え、別に機会を設けて相談に応じたり個別面談を行っている。	B
	・家庭の状況や保護者との情報交換が、必要に応じて関係職員に周知されている。	B
	・『園だより』や『クラスだより』などを、定期的に発行している。	A
	・あらかじめ年間行事の日程を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている。	A

⑮ 職員の資質向上に関する基本的事項

保育所職員の求められる専門性	・相手の立場に立った挨拶、電話、来客者対応が出来ている。	B
	・自己の健康管理が出来ている。	B
	・保育業務の中で知り得た子どもや家庭に関する秘密の保持について、全職員に周知し、守られている。	B
	・保護者や地域の人からの相談事項について、プライバシーの保護、話された内容の秘密保持を徹底し、守られている。	B
質の向上に向けた組織的な取り組み	・業務遂行にあたって、正確、迅速かつ、報告・連絡・相談を実践している。	B
	・公平に人の話を聞いたり、話ができ、正確に伝達できている。	B
	・問題意識を共有しながら職員間で共通理解し、協力している。	B

⑯ 職員の研修等

研修の活用	・園内研修を行っている。	B
	・各職員について、適切な研修機会の確保を行っている。	B

園全体の評価・反省

- 新型コロナウイルス感染症のため運動会やお遊戯会等の行事を中止したり、変更して行ってきたこれまでの行事を踏まえ、行事の内容や考え方をまとめる年となった。
- 子どもの中には特性を持つとみられる子どもも見られ、保護者に寄り添いながら関係機関への相談を進めてきたが、実現が難しい案件もあった。
- 春・夏・秋・冬と、保育に季節感を取り入れたり、楽しい保育になるよう心がけてきた。「さろんこうづ」やフレンドリーでの世代間交流では、年長児がお年寄りに手紙を書いたり、もらったり、地域の方との心の交流となった。
- 虐待報道が多く聞かれた1年であったが、職員間の考え方や意見のすり合わせを何度か行い、これからのトイレトレーニングや食事、箸の使い方等の保育方針の方向性を確認し、無理はしない、させないことになった。大きな声であったり強い言い方などが虐待であることは認識しているので、保育園全体で注意していきたい。

次年度の課題

- 職員が保育園全体を視野に入れ保育に携わっていくこと。同じ方向を向き保育をして、自分のクラスだけではなく保育園全体で子どもたちに目を向け、子どもと保護者を支えていく。
- 「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の言葉を忘れずに行事や保育を進めていく。
- 特性を持つと思われる子どもの保護者に、関係機関へ相談を勧める難しさをみんなで考え協力し、進めていく。
- 日々の保育の振り返りや行事の振り返りをし、改善すべきこと、そのまま次に進めるべきことを判断し次につなげていく。
- 大きな声や言い方に特に気を付け、楽しい保育により子どもたちが「保育園が好き」と言われる保育、保護者の方から信頼をされる保育をしていく。